

(公財) 紫雲会 横浜市中区生活支援センター

平成 25 年度 事業報告書

平成 25 年度は、中区生活支援センターにとっては初年度同様であったため、センターの役割や支援内容など、地域へ周知と中区福祉保健センター及び様々な関係機関との関係作りを意識しながら、業務運営を図りました。また、本年度より「障害者総合支援法」が施行され、既存の生活支援センター業務に新たに指定特定、指定一般相談支援事業という更なる個別相談の充実という事が加わり、各事業それぞれの研修や勉強会を通して、職員の資質向上も図りつつ展開しました。また、地域ネットワークの中核を担うべく、地域や家族会との関係作りを重視しつつ積極的に外部機関からの要請を受け、訪問活動や普及啓発活動に力を入れた支援を実施しました。

I. 平成 25 年度 運営実績報告書

平成 26 年 3 月 31 日現在

登録者数（当事者本人のみ）	359 名		
利用実績			
来館者数（当事者本人のみ）	25.8 名／日	相談等利用実績	
サービス利用		電話相談	31.0 件／日
夕食サービス	16.0 名／日	面接相談	3.7 件／日
入浴サービス	4.0 名／日	非構造面接	4.0 件／日
洗濯サービス	0.9 名／日	嘱託医相談	32 件／年
インターネットサービス	0.9 名／日	訪問・同行	18.2 件／月

II. 支援内容

1. 地域活動支援センター事業

① 《相談支援》

相談支援は、初回インテーク面接をきめ細かく行い、その後継続して利用することが出来る様配慮しました。また、電話相談が多いとの予想から、申込電話と分け、相談専用電話にしたことにより、安心して電話相談が受けられるように考慮しました。

地域ケアプラザや地域住民からの相談も少なくなく、地域連携を意識した相談支援を実施しました。

② 《訪問・同行》

当センターの運営方針として、訪問・同行を充実される為に緊急の訪問にも対応すべく、必要時に必要な人員が訪問や同行に出来る限り派遣することが出来る様職員配置を考慮し、職員個々の意識の統一を図りました。

また区福祉保健センターをはじめ、家族や関係機関からの要請による訪問も多く実施し、家族単位で地域の支援チームとしての訪問を行いました。

③ 《家族支援》

家族会（みなと会）への支援と連携を図ることを目的に、毎月の定例会への参加をすると共に家族会及び家族個人としての要望を受け入れた上、センター内で検討し、家族会のみならず家族会に加入していない家族への支援体制を固めました。

④ 《自主事業》

自主事業については、極力最小限に留めた中でプログラム等を通して支援に繋がることを十分に考慮し、利用者が必要と思われることを利用者と共に検討した上で、センター主催によるものを最小限に留めました。

また、利用者の自主性を重んじるために利用者自身が「自主サークル」を企画、運営することが出来る様な後方支援を行いました。

※別紙資料参照

⑤ 《情報提供》

法律や制度改正等の情報をいち早く入手し、解り易く発信すること及び疾病や障害について広く広報することに努め、様々な媒体（ホームページ、センター便り、館内掲示など）での情報提供を行いました。

また、病気や障害のみならず、生活に即した「金銭管理」や「日常生活に関連する法律」に関する講座を実施し、多方面にわたる情報提供を行いました。

⑥ 《普及・啓発活動》

地域及び他障害関係機関等を対象にした普及啓発を実施しました。具体的には地域ケアプラザと協働して「こころの病について」講座を実施し、精神障害に対する理解と対応について啓発を図りました。

⑦ 《地域交流・地域連携》

中区福祉保健センターとの定期連絡会を毎月行い、区内の当事者及び家族に関する情報共有や検討会を実施しました。

地域ケアプラザとの連絡会を定期的に行い、地域の課題や地域包括支援の問題等について、また支援者向けの勉強会などの企画を検討しました。

地域の行事、催事には積極的に参加し交流に努めました。具体的には、地域活動ホーム合同のお祭り、町内会の夏祭り、箕沢まちなかプロジェクト参加、中区障害者団体のポレポレまつりの運営参加など。

また、3 障害を見据えた「中区障害者団体連絡会」、「地域自立支援協議会」などの事務局にも参画をし、交流を図ると共に連携体制を強化しました。

⑧ 《各種サービス提供》

夕食サービス…衛生面に十分留意をし、安価で栄養バランスのとれた食事を提供しました。

入浴サービス…地域特性として利用が多いが、利用者自身での清掃を奨励するなど、日常生活に即したサービス提供を行いました。

（他、洗濯サービス・インターネットサービスを提供）

## 2. 計画相談支援事業

本年度より「計画相談支援」を実施し、計画的且つ重層的な個別支援を行いました。計画相談は、単に計画を立てて支援をするだけでなく、利用者一人ひとりの個々の能力を伸ばし、自立に結び付けるべく、地域関係機関及び支援センター職員全員の協力の元実施しました。

平成 25 年度は、7 名の利用者の計画相談を実施しました。

## III. その他

### 1. 職員資質の向上・人材育成

初年度という事で、新任職員の人材育成に力を入れ、精神障害に関する知識及びソーシャルワーカーとしての資質の向上に努めました。

### 2. 衛生管理

毎日の館内清掃、毎月 1 回調理器具の消毒、漂白やシーツ類の洗濯等を行い、衛生管理に努めました。特に調理室の衛生や調理に使用する布巾、入浴時に使用するタオル等については清潔を保つよう徹底しました。

### 3. 安全管理・災害対策

安全管理に関しては、利用者個々の日々の様子を意識し、不穏時の対策等について、日頃の職員ミーティングや職員全体会議に於いて検討、対応策を講じました。

災害対策は、中区役所との「特別避難場所に協力する協定」に基づき、万一の災害時対策として、災害備品（発電機、サーチライト等の照明機器、ラジオ、懐中電灯等）を整備し、避難所としての整備を固めました。

## IV. 地域移行・地域定着支援事業（退サポ）

中区生活支援センターは、平成 25 年度より「横浜市地域移行・地域定着支援事業」の一員として新たに加わり、センター開所当初より退院促進支援並びに普及啓発活動実施してまいりました。また、平成 25 年 4 月より、精神障害者が住み慣れた地域を拠点とし、関係機関の連携の下で、医療、福祉等の支援を行うという観点から、統合失調症を始めとする入院患者の減少及び地域生活への移行に向けた支援並びに地域生活を継続するための支援を推進する、「支援法」の下での「精神障害者地域移行・地域定着支援事業」も始まりました。中区生活支援センターは、当事者のニーズに寄り添いながら、両事業をタイヤの両輪としてよりきめの細やかな支援を実施することとなりました。今年度は個別支援と並んで事業の重要な内容である普及啓発活動に力を入れ、各センターとの協働活動により、事業の理解や社会資源の紹介を実施いたしました。

平成 25 年度支援実績		
横浜市地域移行・地域定着支援事業（浜の退サポ）	支援継続	3 名
地域移行・地域定着支援事業（国・指定一般相談）	相談中	1 名
普及啓発活動 1	医療機関	4 回
普及啓発活動 2	地域	1 回

※医療機関～日吉メンタルクリニックデイケア、作業療法室（退サポ北部ブロックによる協働活動）

※地域 ～地域ケアプラザ

## V. 自立生活アシスタント事業

昨年度3月より開所し、本格的に今年度から当事業が始まりました。当初は区福祉保健センターからの依頼から受け始め、人数の伸びが余りなかったこともあり、支援センターの利用者を中心に自立生活アシスタントへ移行し、登録に結びつける事例が多かったものの、徐々に区福祉保健センターを中心として依頼も増え、目標である10件には到達しなかったものの、9件の登録と、相談継続者も8件受けることとなりました。

登録者に必要とされる支援は訪問を中心に行う方から、面接を中心に行う方まで様々であり、また、利用者によっては一つ一つ課題をクリアしていく中で、新たな課題が現れ、支援の内容が変化していくケースもありました。その様な中でも、やはり支援内容は訪問を中心としたものが多く、また援助内容は依頼を含め、自アシ＝金銭管理というイメージが強く、お金をどのように使うかという相談から具体的に金銭管理自体の手伝いを行う事例なども多くありました。利用者の金銭を取り扱う観点から、更に管理に関する書面やセキュリティ面を強化していく必要性を感じました。

徐々に登録者が増えていくことで、スタッフのキャパシティも超えてしまう可能性もあるため、現状の支援内容を整理し、少しでも多くの方に支援が行き届くようにしていくことを来年度の目標としていきたいと考えています。

	支援者数		援助内容	
支援内訳 (H25.4月～H26年3月)	登録者	9名	心理情緒	142回
	相談中	8名	医療健康	57回
	援助方法		消費生活	124回
	面接	188件	就労	20回
	電話	128件	衣食住	113回
	訪問	60件	対人	57回
	同行	45件	制度	33回
			アシスタント所属施設の利用	40回
			関係機関との連携	96回
			余暇支援	58回

◆自主事業等（定期開催プログラム）			
頻度	プログラム名	内容	参加人数
12 回	昼食会	世界各国の料理	25 名/回
12 回	映画鑑賞会	利用者と検討した映画鑑賞	9 名/回
11 回	たこ焼(クレープ)パーティ	利用者と共に作成して食す	14 名/回
3 回	メンバーミーティング	センターをより使いやすくするために	
12 回	緑菜園	緑区センターと共同で菜園体験	

◆自主事業等（特別開催イベント）	
イベント名	内容
ポンテまつり	地活ホーム「みはらし」との共催で地域イベント
秋のバスハイク	中区生活教室との共催（芦ノ湖キャンプ村でBBQ）
マリンシャトル乗船	中区生活教室との共催
押し花DEアート	外部講師を招聘しての押し花作り
クリスマス会	中区生活教室との共催によるクリスマス会
正月イベント	初詣、カルタ大会
就活セミナー	えにしの会による親亡き後の過ごし方など講座
お金に関する講座	健康福祉局と共催（金銭トラブルの怖さと節約について）
弁護士相談説明会	弁護士による法律に関する講座と相談会説明

◆センター利用者による自主サークルへの協力		
音楽サークル（笛・ギター）	英会話サークル	パソコン教室
英会話サークル	写真サークル	バスケットボールサークル

◆地域交流・地域連携・家族連携	
ケアプラザ祭り・ふれあい祭り	ケアプラザや地域のお祭り参加
ポレポレまつり	中区障害者の地域まつり
普及啓発活動「こころの病について」	ケアプラザ職員・ケアマネ対象の講座
浜家連フォーラム	ブロックフォーラムの参加
当事者研究	月1回「ろばと野草の会」主催の研究会
中区家族会「みなと会」への参加	定例会・家族による家族学習会の参加等

◆主な外部会議	
自立支援協議会事務局会議	中区障害者団体連絡会事務局会議
ポレポレまつり実行委員会	障害福祉部会
中区福祉保健センター定例会議（毎月）	地域活動ホーム運営委員会
生活支援センター連絡会	発達障害者支援連絡会
東部若者支援ネットワーク連絡会	障害者区分認定審査会
紫光連絡会（知的障害者法人との連絡会）	

平成25年度 中区生活支援センター指定管理料収支決算書(総括)

自平成25年4月1日 至平成26年3月31日

(単位 円)

科目		予算額	決算額	差 額	備 考
<b>I 収入の部</b>					
	1 指定管理料 収入	61,230,000	61,230,000	0	
A	2 利用料収入(給付費)			0	
収入合計		61,230,000	61,230,000	0	
<b>II 支出の部</b>					
戻入 精算 B	1 人件費	51,009,000	51,003,139	5,861	
	所長	6,330,000	6,529,430	△ 199,430	
	常勤職員	24,954,000	21,874,093	3,079,907	
	非常勤職員	8,161,000	12,484,239	△ 4,323,239	
	アルバイト	1,943,000	889,950	1,053,050	非常勤職員に充当
	調理アルバイト	1,667,000	1,924,650	△ 257,650	
	嘱託医賃金	968,000	342,720	625,280	
	法定福利費	6,061,000	6,076,262	△ 15,262	法定福利費+労働保険料-雇用保険料
	退職金給与引当金	100,000	110,100	△ 10,100	
	福利厚生費	725,000	688,470	36,530	横浜市社協共済年金
	労務厚生費	100,000	83,225	16,775	職員健康診断料
2 施設管理費	5,741,000	3,217,620	2,523,380		
光熱水費	2,800,000	2,071,732	4,871,732	実費使用分+施設按分分	
庁舎管理費	2,821,000	1,133,488	1,687,512	施設面積按分	
修繕積立金	200,000	200,000	0		
利用者負担金充当金	△ 80,000	△ 187,600	107,600	入浴・洗濯・インターネットサービス	
3 運営費	4,480,000	4,209,888	270,112		
旅費	830,000	478,960	351,040	職員出張旅費	
消耗品費	440,000	838,833	△ 398,833	日用品、事務用品等	
印刷製本費	260,000	249,091	10,909		
修繕費	50,000	61,015	△ 11,015		
通信運搬費	640,000	531,114	108,886	電話、PC通信、振込手数料等	
賃借料	980,000	771,050	208,950	自動車、コピー機リース料	
備品等購入費	400,000	750,936	△ 350,936	テーブル、椅子、PC等	
保険料	20,000	37,510	△ 17,510		
雑費	860,000	491,379	368,621	研修費、各種会費、教養娯楽費等	
4 本部繰入金			0		
支出合計		61,230,000	58,430,647	2,799,353	
<b>III 戻入精算</b>					
A 利用料収入合計の15%				0	
B 人件費戻入精算分				5,861	
戻入合計				5861	